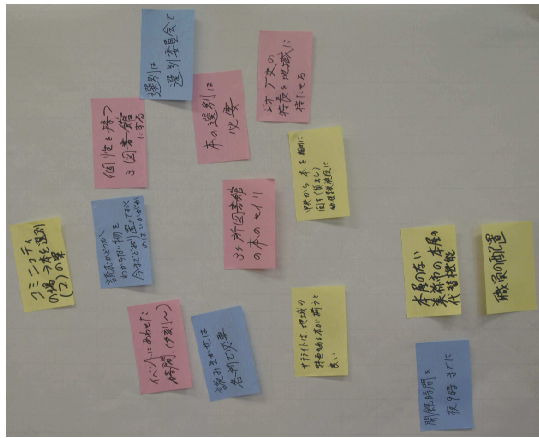


STEP5：新しい美称市立図書館の構成や運営体制の基本的な考え方についての意見



- コミュニティの場→本を選別して（2）の案
- 読むかどうかかわからないものを今ままで通り置いておくのはいかがか
- イベントに合わせた時間（夕刻～）
- 読み聞かせは各所で必要
- 個性を持つ、3図書館にする
- 選別は選別委員会
- 本の選別は必要
- 3カ所図書館の本の整理
- サテライトは地域の特色のある本が揃うとよい
- 中央から本を小まめに回す（貸出）、幼児学校施設に
- ジオ、歴史の特徴を地域に持たせる
- 開館時間を夜9時まで
- 本屋のない美称市の本屋の代替機能
- 職員の配置

美称市立図書館基本構想策定業務

令和3年度第4回美称市立図書館あり方検討委員会 発表記録（株）龍環環計画	
日時	2021年8月6日（金）14：00～15：30
場所	市民会館 大会議室

STEP2：これまでのあり方検討委員会で出された意見を基に作成した基本構想の

全体構成（案）と、途中経過についての意見

グループA

- 美東、秋芳図書館に図書館専門スタッフや司書の配置が重要
- リモートでも貸出が可能なシステムの構築、周知が必要
- 美称らしさは、何か？化石だけではない ジオパーク 石灰岩
- 3つの図書館の連携により、ナンバワーワではなくオンリーワンの図書館を目指したい
- いかに3つの図書館の連携を機能させていくには、専門スタッフの配置が必要ではないか？

取組2「ICT環境で、つながる、広がる」の方が表現は良いのでは？

- 図書館と地域がつながるということを具体的に精査していきたい
- 人を育て、次世代の未来を育むという表現が少し偉そう？

グループB

- 働く人（司書やスタッフ）に関しての方針が必要では？
- 司書の配置方法や
- 美称らしさというものが市外の人へどのように伝えるのかも必要だと思う  
→美称市のPR動画などで発信？
- 美称は「市民を誰も一人にしない」という方針があるので、高齢者が外へ出るきつかなるような図書館とならないといけない
- 地域包括ケアなど、高齢者の健康を支える仕組みが必要
- 小学生から高校生が県立図書館や他の図書館にタブレットで接続できる環境整備が必要

## グループC

- ・いろいろな世代が集まれる場所がある
- ・学生が自習できる場所がある
- ・イベントができる場所がある
- ・独居老人などが気軽に集まれる場所がある
- ・図書館に来たらとにかく楽しいことに出会える
- ・カフェなどがあるとよい
- ・コミュニティの場となる図書館

## 役割6

- ・イベントができる空間が用意されている

## みんなでつくる

- ・いろいろな人の意見を聴く
- ・イメージキャラクターなどでPR
- ・ボランティアなど市民を巻き込むしくみ

(arg 岡本コメント)

- ・中央図書館と2つのサテライト図書館でサービスが完結するわけではない
- ・公民館は市民にとって行きやすい、近い位置にある
- ・一方で、学校の図書室は子どもたちにとって最も近い図書館の入り口となっている

・自力で図書館へ行けない学生のために、図書館への適切な公共交通機関を整備することも大切だが、毎日、通う学校の図書室が大きな美称図書館のシステムにつながっていることが重要

- ・学校図書室で本の取り寄せができるなど
  - ・一部の自治体では、公共図書館に学校図書支援センターを設けている
- 学校図書館の職員は一人で複数の学校を担当しているため、週に1〜2回程度、図書館を開けに来る  
→学校ごとにサービスの差が生まれてしまう

- ・学校図書支援センターは公共図書館が学校図書室に対して全般的なサポート、バックアップを行う
- ・美称市全体において、子どもたちが手にできる情報の量・機会の平準化ができる
- ・同じく公民館図書室においても同じような仕組みを取り入れることができる
- ・子どもから大人まで情報を手にする機会を平等に得ることができる

(arg 岡本コメント)

・今までこうだったから、これからもこうでよいという考え方ではなく、せつかくの機会なので、一度立ち止まって、こうしたらよいのではという考え方をしてみたらよいのと思う

・蔵書数に関しても、そう遠くない未来に、かなりの数の電子書籍化が進むことが考えられる

・これからの美称の未来、地域を支えていく、若者にとつてどのような空間があったらよいかを、図書館はこうあるべきという考えを取り私り私り考えてみてよいのではないか

(教育長コメント)

・図書館の連携について、中学校、小学校がネットワーク化の中に含まれているが、(市立と私立関係なく) 保育園や幼稚園もネットワークの中に組み込めるようにしてほしい

・小中高学生については1人1台タブレットを所持しているため、ICT化についても積極的に考えていきたいらよいのと思う

#### STEP5: 新しい美称市立図書館の構成や運営体制の基本的な考え方についての意見

グループA

- ・中央図書館に歴史資料などを保存し、サテライト図書館には、とつかかりとなるような親しみやすい本を置くことよいのではないか
- ・学童に通う子どもが多く、読みやすい本を置くことよいのでは
- ・図書館には入りにくいという印象があるため、入りやすい図書館づくりが大切

・移動図書や巡回図書があることよい

・学校の職員室に本を届ける仕組みがあると更に学びが深まるのではないかと  
思う

グループB

・利用する人がつくろげる場所が必要

・秋芳はジオパーク関連の資料をまとめているが、専門性の高い資料が多いと地域の方が利用しにくいのでは? とつかかりとなるような本が良い

・図書受付カウンターがどこにあるのか?

→職員の人教等の検討はこれからも必要である

基本設計段階では、総合支所の職員と公民館・図書館職員の執務スペースがワンフロアでつながついていた方がよいという考えのもと現在計画している

今後、方針を含めて詳細に詰めていく必要がある (内田)

・くつろげると共に、勉強、学習できる空間の確保が必要

・親が送り迎えにくるまでの間、子どもたちが待ち時間を過ごす場所があった方がよい

グループC

・蔵書数を減らして、居場所を増やした方がよい

・特色のある図書館づくりは大切

・本の整理については廃校になった校舎に保存をする

・各地域、読み聞かせスペースはちゃんと確保したほうがよい

・美称市には本屋がないため、本屋の代替となるような図書館となるように、開館時間の制約(仕事帰りでも立ち寄りできる等)、職員の配置等、これから考えるべきだと思う

(arg 岡本コメント)

・守るべきものは守る、挑戦すべきものは積極的にチャレンジしていくべきだと思う

・教年先ではなく、数十年、50年先に、本当に必要なものを、意識的、主体的に選択必要がある

・職員室に本を届けるシステムはとても良い考え方だと思う

・今の子どもたちは大人よりも圧倒的に優秀である

・図書館づくりを子どもたちへの未来の投資と考え、大人が日々学んで、子どもたちに対してかっこよい背中を見せていくことができる、社会教育、生涯学習機関になるとよいのと思う

延期になっていた

自由に語り合う 車座集会

やります！！



こんな図書館を

つくりたい！

※車座集会とは、多くの市民が輪になって内側を向いて座り、自由に意見を出し合う集会のことです。

美祿市立図書館基本構想（素案）の車座集会を開催します

○第1部

公開講演会

「未来の図書館、  
はじめましょう！」

講師：岡本 真氏 (arg プロデューサー)

○第2部

車座集会

「こんな図書館をつくりたい！」

図書館について日ごろ感じておられることや、こんな図書館がいいと思われることなどを車座になって、気軽に語り合う場です。

進行：内田 文雄 (龍環境計画 代表)

「こんな図書館があったらいいな」と考えたことはありませんか？

美祿市教育委員会では、新しい図書館整備のあり方や方向性を検討するために、平成29年度に美祿市立図書館あり方検討委員会を立ち上げ、これまでに8回の委員会を開いて議論を重ねてきました。

その結果を、美祿市立図書館基本構想の素案として取りまとめましたので、これを中間報告として広く皆様に公表するとともに、さらに多くの意見を反映した基本構想とするために車座集会を開催します。

みなさん自由に参加してください！

参加費無料、事前予約不要

日時：令和3年10月16日（土）

9：30～12：00

会場：美祿市民会館大ホール

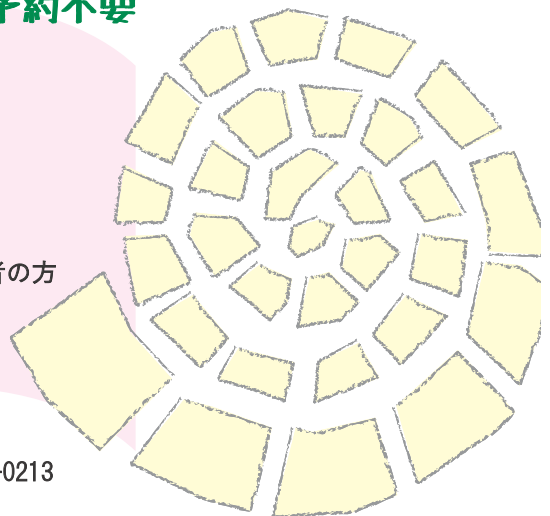
対象：美祿市民の方、

及び、市外からの美祿市立図書館利用者の方

※感染防止対策として、マスクの着用や検温、

入場者名簿の記入等にご協力ください。

問い合わせ先：美祿市立美祿図書館 tel 0837-52-0213



美称市立図書館基本構想  
車座集會 資料

自由に語り合う 車座集會

こんな図書館をつくりたいナ!

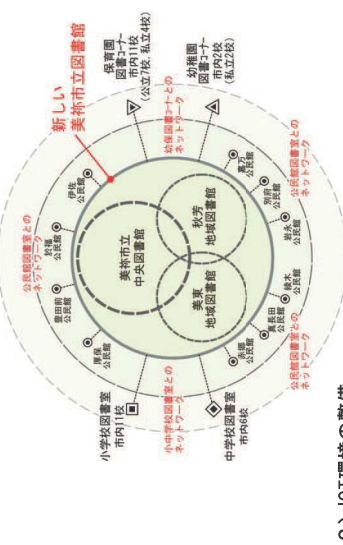


新しい美称市立図書館の施設整備に関する考え方

1) 中央図書館と2つの地域図書館を中心とするシステムとしての図書館

3つの図書館がそれぞれ同じような機能や運営内容を求めるのではなく、美称図書館を中央図書館と位置づけ機能の充実を図り、美東図書館、秋芳図書館は、それぞれの地域の特徴を踏まえたく上で、地域住民の居場所となる個性を持った地域図書館として整備します。さらに、各地区の公民館図書館、小学校、中学校の学校図書館、および、保育園、幼稚園、幼保園の図書室が、全体の緊密な連携を図り、ひとつのシステム「美称システム」として働く図書館づくりを進めます。

新しい美称市立図書館の構成



2) ICT環境の整備

図書館をひとつのシステムとして円滑な運用を図るためには、検索システム、予約システム、など、誰にとっても使いやすいよう運用されることが重要でありそのために必要不可欠なICT環境の整備を進めます。

美称市の図書館の利用現状

美称市の市内人口に対する図書館の利用登録者数や蔵書数、貸出数の比率等（美称市立図書館、美東図書館、秋芳図書館の合計数）を算出しました。公開されている県内の市町村の図書館の統計資料（注1）から算出した、平均値と比較し、美称市の図書館の利用状況を把握しました。

項目	山形県内の市町村の平均値	美称市（3館の合計数）	美称市立図書館	秋芳図書館
①人口（人）	75,600	25,000	-	-
②登録者数（人）	46,000	4,800	3,700	400
登録率（%）	②÷①×100	6.0	19.2	-
③蔵書数（冊）	317,000	184,000	123,000	31,000
1人あたり蔵書数（冊）	③÷①	4.14	7.36	-
④貸出数（冊）	446,000	69,000	60,000	9,000
1人あたり貸出数（冊）	④÷①	5.82	2.76	-
利用登録者1人あたり貸出数（冊）	④÷②	9.70	14.38	-
⑤職員数（人）（注2）	31	9	4	2
1000人あたり職員数（人）	⑤÷①	0.40	0.36	-

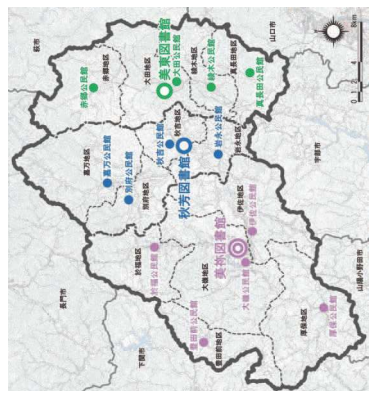
①～④の数値は、概数とする。統計と名簿2020。を基に、公開されている県内の18市の平均値を算出（注1）日本の図書館館員数。統計と名簿2020。を基に、専任、兼任、非専任を含む人数とする（注2）職員数に関しては、専任、兼任、非専任を含む人数とする

美称市の市民1人当たりの蔵書数（7.36冊）は多いが、市民1人当たりの貸出数（2.76冊）は低い数値となっている。その原因として、市内人口に対して利用登録者の比率（19.2%）が低いことが考えられます。一方で、利用登録者1人当たりの貸出数（14.38冊）と比較対象に比べて高いことから、利用登録者は日常的に図書館を利用していることが分かります。

また、図書館に配置されている職員数に関しては、市民1000人当たりの職員数は（0.36人）となっており、図書館専門職員の確保が課題であると考えられます。

美称市の3つの図書館の運営における課題

現状3つの図書館が並列して運営されている状況を一括となり、機動性のある運営体制に移行することが求められています。美東図書館と秋芳図書館については図書館専門職員が配置されていないため、住民に対するサービスが限られています。市の財政状況など、総合的に判断して、3館それぞれが同様に図書館としての内容や設備を整えることは現実的ではありません。今後、3つの図書館のネットワーク体制の構築と運営の方針づくりが課題となっているといえます。



基本構想策定の流れ

これまで、「あり方検討委員会」をワークショップ形式で計4回開催し、市民の意向を取り入れながら、検討を重ね、現在、基本構想（案）の段階まで来ています。



利用物語イメージ1

〇歳児の健康増進を兼ねて、ブックスタートで絵本を貸した。今まで、どのような絵本を選んであげたのか分からなかった。自分で絵本を選びたいという思い、図書館に足を運ぶかと思いついた。図書館の近くまで来た。近所の子供たちが図書館の入り口で絵本を借りては、とても楽しんでいる。近所の子供たちが借りては、とても楽しんでいる。近所の子供たちが借りては、とても楽しんでいる。

利用物語イメージ2

市立図書館で読書会に参加した。読書会では、先生が心ゆくまで話を聞かせてくれた。読書会に参加して、先生が心ゆくまで話を聞かせてくれた。読書会に参加して、先生が心ゆくまで話を聞かせてくれた。

利用物語イメージ3

市立図書館で読書会に参加した。読書会では、先生が心ゆくまで話を聞かせてくれた。読書会に参加して、先生が心ゆくまで話を聞かせてくれた。

利用物語イメージ4

市立図書館で読書会に参加した。読書会では、先生が心ゆくまで話を聞かせてくれた。読書会に参加して、先生が心ゆくまで話を聞かせてくれた。

## 新しい美祿市立図書館が目指す姿

### 新しい美祿市立図書館が担う5つの役割

新しい美祿市立図書館づくりの基本理念を実現するためには、図書館がどのような「役割」を担うべきなのか、5つに整理しました。

#### 役割1 資料や情報をわかりやすく提供する

- すべての市民に資料や情報をわかりやすく提供します。
- 資料や情報とそれを必要とする人を結びつけるレファレンスサービスを用意します。
- 世代を超えて、生涯を通じて学びができる環境を備えます。
- 地域のくらしの情報を細やかに発信します。

#### 役割2 多様な学びの活動を支援する

- 地域の特性を生かした体験型の学びやサークル活動を、市民協働で実践します。
- 資料や情報の提供と関連して、講習会や研修会など、様々な文化活動を展開します。
- 子どもを囲む活動を充実させ、読み聞かせなどの活動を図って、本に親しむ環境を整えます。
- 豊かな学習室や読書室、少人数で調べもの学習などのアクティブラーニングに対応できる場所などを設けます。

#### 役割3 地域のくらしを支える

- 市民が抱える様々な課題を共に発見し、解決するための支援を用意します。
- 市民の新しい活動へのチャレンジを支援する仕組みを用意します。
- 高齢者のくらしを支援するための本や情報などを用意し、「誰も一人にしない地域づくり」に貢献します。

#### 役割4 地域の歴史と魅力を伝える

- 3億5千万年前から続く特異な大地の上に展開してきたまちであることの個性や魅力を理解するための情報発信を工夫します。
- 秋芳洞、秋吉台など、ジオパークなどに関連する資料をどこよりも充実させます。
- 博物館や資料館、化石館などにつながるレファレンスや展示の提供により、地域固有の文化を広く発信します。

#### 役割5 楽しいみんなの居場所を提供する

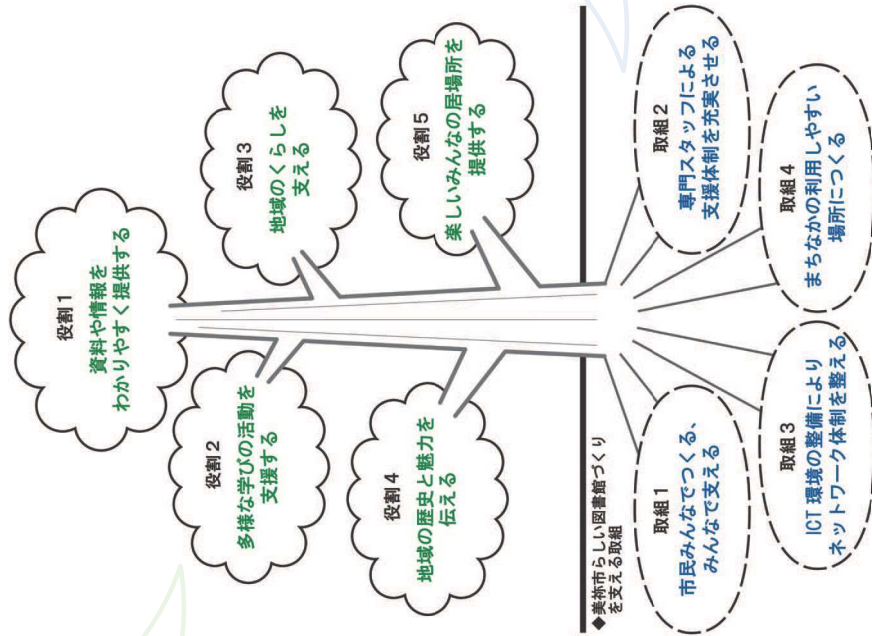
- 市民が目的もなくふらっと立ち寄り、ゆったり過ごせる場所を用意します。
- 子供連れの安心して、安全に過ごせる「子どものシネエター」となる場所を設けます。
- 講習会など、さまざまなイベントができる場所を提供します。
- 世代や地域を超えた交流の拠点となる場所を設けます。

### 新しい美祿市立図書館の構成

これまでの議論を基に、新しい美祿市立図書館の全体の構成の考え方について整理しました。「基本理念」を実現するための図書館の「役割」とそれらを支える「取組」の関係についてまとめています。

#### 基本理念

歴史(むかし)をたずね、  
現在(いま)を知り、  
未来(あした)を育む、  
わたしたちの「ひろば」



### 新しい美祿市立図書館づくりのための4つの取組

5つの役割を担う図書館をつくりあげていくために必要な「取組」を4つに整理しました。この取組は、美祿市らしいみんなの図書館を実現するための根幹となるものです。

#### 取組1 市民みんなでつくる、みんなで支える

- 計画段階から運営段階までの様々なプロセスに、市民が力を合わせて、市民のための図書館を協働して育てていきます。
- ボランティアの人材を育成し、図書館運営に当事者意識を持って関わる市民の力を集めます。
- お年寄りから子どもまで、暮らしの知恵を相互に伝えあい、地域づくりの拠点となる活動を育てます。

#### 取組2 専門スタッフによる支援体制を充実させる

- 市民と資料・情報をつなぐ重要な役割を担う司書・職員の適正な配置により、レファレンスサービス等の充実した運営体制をつくりあげます。
- 専門スタッフの運営体制をしっかりとつくることで、市民ボランティアの支援活動が加わりやすくなり、美祿市らしい市民協働の図書館づくりが実現すると考えています。
- 図書館づくりなどの発行により、継続的な図書館情報の発信に努めます。
- 市内の小・中学校や、保育園、幼稚園などに必要な資料の貸し出しや、図書室環境の整備のサポート、及び、公民館図書室の支援を行います。

#### 取組3 ICT環境の整備によりネットワーク体制を整える

- ICTの活用によりネットワーク体制を整え、実空間と情報空間が融合したハイブリッド図書館として充実させます。
- 県立図書館や、歴史的な流れを共有する周辺市の図書館などとの緊密な連携を図ります。
- 中央図書館と2つの地域図書館、各地域の公民館図書室、小・中学校図書室、幼・保図書室とのネットワークにより、身近なところに届く図書サービス「美祿システム」を構築します。
- DX(注)や行政のデジタル化を先導する施設を目指します。

(注)DX:

デジタルトランスフォーメーション「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させる」という概念

#### 取組4 まちなかの利用しやすい場所をつくる

- 駅、市役所、他の公共施設、公園などとの関係を重視し、市民が利用しやすい場所にしたり、まちなかの賑わいの創出に貢献するよう努めます。
- 公共交通、自家用車、自転車、徒歩など、市民が whichever の交通手段でもアクセスしやすい場所につくり、利便性に配慮します。

## 第6回 美祢市立図書館あり方検討委員会 (拡大委員会)ワークショップ

日時:令和3年11月18日(木)14:00~16:00

場所:美祢図書館 視聴覚室

### -テーマ-

- ・車座集会で出された意見を振り返ります
- ・基本構想の第3章、第4章の内容を議論します
- ・図書館運営の肝となる「美祢システム」について話し合います

### -プログラム-

#### STEP 1 : 車座集会 (第5回あり方検討委員会) を振り返ります

- ・車座集会で出された意見について確認します。(資料1)

#### STEP 2 : 車座集会で出された意見を反映した基本構想の修正箇所について確認します

- ・意見を反映した基本構想の修正箇所について説明します。(資料2)
- ・説明した内容について、自由に意見を出し合います。

#### STEP 3 : 基本構想(案)の第3章について確認し、協議します

- ・新しい美祢市立図書館の構成「美祢システム」
- ・施設規模
- ・建設場所
- ・概算事業費
- ・整備スケジュール

などについて説明します。

説明した内容について、自由に意見を出し合います。

#### STEP 4 : 基本構想(案)の第4章について確認し、協議します。

#### 第3章で確認した「新しい美祢市立図書館の構成」による図書館を運営するための「美祢システム」をどのようにつくり上げていくか? について話し合います

- ・美祢らしい図書館の運営方式「美祢システム」をつくり上げていくためのアイデアを出し合います。
- ・出されたアイデアのうち、何を、どういう手順で進めていったらいいのか? 「アクションプラン」について話し合います。

#### STEP 5 : 各グループで出された意見を全体に紹介してください

- ・各グループの発表をもとに、全体で議論します。

#### STEP 6 : 今後の整備の流れについて、事務局より説明します

- ・今後の検討課題、検討の流れや整備スケジュールなどについて、事務局より説明します。

#### STEP 7 : 今日のまとめ

- ・あり方検討委員会や今後の進め方などに関する意見を、感想カードに自由に書いてください。

## 車座集会で出された意見と基本構想との対応

	- 基本構想との対応 -
(検討委員)	
・ 子育てをされていて一番大変だと思ったことは、子どもの居場所がないこと。公園は車がないといけないうし、近くに住む子どもがない、また子育て支援センターは週に1、2回しか開いていない。保育所が休みになる土日は家に缶詰めになる。	役割5、取組4
・ 行き場を求めて、市外に行くことがほとんどである。イベントに行きたいから市外に行くというよりは、行き場がないから。美祢の子どももなのに、なぜ市外に出なければいけないのか。行き場がない子どもを持つ親として辛い。	役割5、取組4
・ 新しい美祢市立図書館が、子どもを育てる親と、子どもの居場所になることを期待する。	役割5
・ 樹の新しいみんなの居場所という役割で、図書館は土日でも開いているし、母親だけでなく、父親とも子どもは行きやすい。	役割5
・ 子育て支援センターはお母さんとは行きやすいが、お父さんとは行きづらいということがあった。	役割3
・ 乳幼児の頃から絵本に触れることができ、遠慮することなく居てもいい場所があるだけで、親子連れや小さい子どもが助かると思う。	役割5
・ 子どもも図書館に寄り添って成長できれば、子どもは自然と興味があるものを見つけて、自分の興味を伸ばしていきけるし、自然と本を読むようになる。	役割1
・ 自然が豊かで良いところだが、本と接する機会が少ないため、図書館に寄り添って育つことで、本は楽しいと思いつながりながら成長できると思う。	役割1
・ 子どもが親から離れたと思う思春期の時期に、図書館が寄り添ってくれる場所になると思う	役割5

## 車座集会で出された意見と基本構想との対応

	- 基本構想との対応 -
・ 友達と過ごす時間、親の目が届かなくなる時間がなくなっていく。そういう時に安心して過ごせる場所が、今の美祢にどれほどあるのか。親から離れたというのは、子どもの健全な成長のため、そういう時期に子どもが安心して過ごせる場所をつくるのも大人の仕事である。親のようにきっちり見るといよりは、誰かが見ているような場所で、友達と話をしたり、本を読んだり、時には学校の調べ物をしたりして、本を読まなくても、ただそこに友達と居られる場所に図書館がなってほしい。	役割5
・ 子どもだけではなく、大人にとっても新しい刺激になる図書館がほしい。本が好きだが、子育てで子どもに手がかり、全く本が読めない。本を読んでも頭に入らず、まず自分が読みたい本を手にとることができない時期があった。	役割2
・ 周りでは、年をとって目が見えづらくなってきた、遠いから本を読まなくなってきたといった話をよく聞く。本を読まないから図書館を利用しないのではなく、本当は誰もが新しいことを知りたい、楽しいことがあればやってみたいというのは普通の感情である。	役割1
・ 本が読めないから図書館は関係ないではなく、本が読めなくても、新しい刺激を与えてくれる図書館であってほしい。そのためには講演会や講座、展示会、ワークショップなど市民活動がたくさんあり、美祢市外からも来て、ワークショップをやっているなど、いつでも何かやっている図書館であってほしい。	役割2
・ 美祢は田舎だからしょうがない、他の場所に行けば楽しいことがあると諦めていたことが多い。美祢市に魅力的な図書館があれば、先生も呼ぶことができ、みんなで話し合うことができ、何も用がなくてもいいところがある図書館になるといい。	役割4、役割2
・ 図書館をつくる段階から関わり、図書館ができたから完成、できた後は職員さんよろしくではなく、みんなが育てていけるよいうな図書館をつくってほしい。みんなを巻き込んで、楽しいことを考えながら図書館づくりができてほしい	取組1



車座集会で出された意見と基本構想との対応

	- 基本構想との対応 -
(検討委員)	
・ タイから子どもたちと教師の一行が教育施設にきたことがある。ホームステイの翌日に感想を聞くと、夜におぼあちゃんやんが本を読んでいたということがタイでは到底考えられないと、びっくりしていた。元来日本人は、子どもから大人まで本が好き。	
・ 美称市は、地域は広いし、化石が多い、また高齢者も多い。図書館は敷居が高いという方が多い。美称市の高齢者は多くいるが、図書館の登録者は少ない。	
・ これからデジタル化が進み、パソコンなどのコンピュータが苦手なシニア層に、どのように本と出会える工夫ができるのか。	役割 3
・ 子どもたちも大事だが、高齢者にとっても生きがいや、居場所に図書館があるといい。手続きが簡単にできる、また公民館で本が借りられるといった仕組みづくりが必要。	役割 2、役割 3 美称システム
・ 本の電子貸出や、貸出名簿を通帳化して、自分が何冊借りたかなどが分かる仕組みなど、お年寄りがどのように図書館と付き合えるのかという工夫が必要。	役割 3
・ 美称システムについて、美称は3つの図書館と13の公民館図書室、幼小中高、博物館などの施設をどのようにネットワークをつくり、利用を一元化できるかという事は、オリジナルな取り組みで、大変期待している。	取組 3 美称システム
・ 図書館は社会教育施設であるため、いかに素晴らしい図書館をつくっても、ただ本の貸し借りだけではいけない。市民に親しまれる図書館、イベントや催し物があり、みんなが気軽に楽しめる機能と抱かせないと、本だけでは堅苦しいし、行きにくく、遊び心のある、市に潤いを与えるイベント、催し物ができるような人材が必要。司書のような専門的な人材だけではなく、イベントなどの演出ができる人材と、事業費をしっかりとつけることが非常に大事。	役割 1、取組 2

車座集会で出された意見と基本構想との対応

	- 基本構想との対応 -
(検討委員)	
・ 図書館でコロナ前まで、第2土曜の午前と午後の2回、子ども達にお話を聞かせていた。各学校で出前講座をするなど、40数年活動してきた。活動を始めたきっかけは、サークルそのものが図書館に育てられたから。	役割 2
・ 本読みに来ていた子どもたちも立派に成長している	
・ 図書館は、いろいろな年代の人を育てる場所。昔あった文芸サークル、公民館の読書サークルなど多くのサークルがある。	役割 2
・ 目的をもって来る以外に、いつでも気軽に集まれるというのは、環境だと思う。大きな駐車場と、小さくてもよい公園とくっついているといい。	役割 5、取組 4
・ 建物そのものはコンパクトでも良いが、みんなが集まれる場所にしてほしい。例えば、桜まつりのときには時間を延ばして、夜の図書館というのでもいい。そのためには行政の方にはもちろん頑張ってもらわないといけないが、ボランティアの方を募って、その方々がまた人を集めるといった関係も大事。	取組 1、取組 4
・ 美称市は市民の図書館カードの作成が少ないようなので、みんなもつくってください。	

車座集会で出された意見と基本構想との対応

	- 基本構想との対応 -
(検討委員)	
・ 6 ページのネットワーク図について、美称市なりの図書館ネットワークになると思う構想としては、美称地域に新しく中央図書館をつくり、美東、秋芳地域に地域図書館をつくるもので、例えば、美東図書館にない本は、美称や秋芳から取り寄せることができ、またより身近に足を運べる公民館にも図書室を設置し、公民館図書ともネットワークをつくり、公民館でも中央図書館の本が取り寄せられるなどのネットワークとなる。	取組 3
・ 小中学校の図書室や保育園、幼稚園の図書室を含めたものについては、学校図書館支援センターもしくは、子ども読書支援センターなどのセンター機能の役割を果たす提案だと思ふ。	役割 2、取組 2
・ 小学校などに子どもを通わせている親は、今の子ども達の学習が自分たちの時よりも主体的な学びや、課題解決のための学習が行われていると感じられていると思う。修学旅行で広島に行くなら、行く前に広島や原爆のことについて調べる、などの主体的な学びをし、現地で深い学びをするという風に変わってきている。どの学校でも問題になるのが、本が不足していること。小さな学校図書館では、揃えられる本に限りがある。そのために、美称市立図書館に修学旅行用の本のセットがいくつもあり、期間貸出される、などといったことが求められている	取組 3
・ 保育園や幼稚園でも、読み聞かせ用の本が置いてあると親が借りやすい。利用イメージで書かれている、県立図書館に取り寄せを依頼していた本が届いたや、宇部市立図書館にある本が取り寄せてもらえたなどは、市を超えた取り組みで、県外図書館や県内の大学図書館とのつながりが必要になってくる。	取組 3
・ 山口県立図書館のホームページで、よく利用されているのが山口県内図書館横断検索で、検索に本の名前などを入れると、どの図書館にあるかが分かるシステムである。どの図書館がこの図書館に依頼するか、という情報だけでは利用者の手には届かず、図書館に依頼することで、本を取り寄せられる仕組み。県立図書館では週 1 回程度の手配をしている。	取組 3

車座集会で出された意見と基本構想との対応

	- 基本構想との対応 -
・ 図書館は県内図書館とのネットワークだけではなく、全国の図書館とのネットワークもある。国立国会図書館や大学図書館や NDL、Search では、全国の大きな公共図書館や大学図書館などの所蔵状況が分かる。このネットワークを美称市立図書館でも利用すれば、県外の図書館にある本の取り寄せなどのネットワークがどんどん広がっていく。	取組 3
・ モノのネットワークだけではなく、調べものも図書館ではできない。図書館に来る人で貸し出しをする人は 100%、図書館カウンターで自分の先祖のことや家系図などの調べものに応じていることを知っている人は 15% という調査結果を聞いたことがある。手の掛かる調べものでも図書館職員が後日調査して回答することもできる。美称の図書館カウンターと県立図書館カウンターのネットワーク。	取組 2、取組 3
・ 調べものに対して、職員は博物館や美術館などにも聞くといったネットワークもある。このネットワークでは、モノを運ぶ、物流が必要になるため、配本車を走らせるなどの仕組みと予算が大事になる。	取組 2、取組 3
・ 市長が専門職員の配置を、とおっしゃったが、図書館に求められる人材を考えないといけない。本に詳しい、デジタルに詳しい、ボランティアなど人とのコミュニケーション能力が高い、マネジメントができる、などといった人材を雇うとなると、それなりの職がないと集まらない。	取組 2
・ 職員という立場であれば、ボランティアの方にもお願いがしやすい。しかしながら、ボランティア同士がコーディネートすると、ボランティアがボランティアに依頼することになり、互いの関係がうまくいかなくなることもある。きちんとしたスタッフ（職員）をできれば複数人配置してもらえると、図書館がよくまわると思う。	取組 1、取組 2

車座集会で出された意見と基本構想との対応

	- 基本構想との対応 -
(検討委員)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館をどういう風に魅力的で、豊かな場所にしていくか、空間をつくっていくか。図書館がいかにかに潜在力や可能性をもつ施設かは、これまでに話されてきたと思う。せつかくもっている潜在力、可能性をいかに伸ばすのか。</li> </ul>	取組 4
<ul style="list-style-type: none"> <li>単に図書館の敷地の中だけで留まっただけで、もったいない。既に今ある、市の関連施設とどのように結びつきながら、まちなかに人の流れを取り戻していくか、賑わいをつくっていくか、ということの大きな起爆剤として、図書館が活きるのではないか。</li> </ul>	取組 4
<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉系の施設に近い場所に図書館があると、高齢者など、単に本を使うことと絡めて、日常の中でも利用機会が増やせるかもしれない。市が持っている施設を含めて、まちなかに賑わいを取り戻していく拠点として図書館を位置付けていくことはひとつ重要かと考える。</li> </ul>	取組 4
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究者としての立場で図書館を利用する機会が多い。一方で、子育てをしていると多くの課題があることを感じている。図書館は年齢制限や立場の違いは関係なく、全ての人が使える施設。利用者を限定しない施設として、いろんな立場の人が集まれて、そこが新たな人と人とのつながりを生み、化学反応を生む。</li> </ul>	役割 5
<ul style="list-style-type: none"> <li>昔は地域の行事などで様々な世代が一同に会する機会が一年の中で何回かあったと思うが、そのような機会が失われてきている中で、図書館まわりというものが新たなつながりの場としてつくっていくのではないか。</li> </ul>	取組 4
<ul style="list-style-type: none"> <li>美称の持っている自然環境、歴史環境の資源に加えて、改めて人という資源の大切さを感じた。人のもっている思いも地域の大事な資源だと思う。</li> </ul>	取組 4

車座集会で出された意見と基本構想との対応

	- 基本構想との対応 -
(一般参加)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの意見について、ごもつともだと思ふ。</li> <li>全てを実現しようすると膨大な予算がいる施設になる。</li> <li>秋芳支所の WS に参加したが、秋芳でも同じような意見がたくさん出た。予算が足りないから削減しないといけないということとがあり、がっかりした。私たちの基本は、まちづくりという観点で支所をどのようにするのか、ということ、私がかかわったのが図書館だった</li> </ul>	役割 5
<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館を中心に集まれる場所をつくり、子どもも老人も行きやすく、一日過ごせる場所をしたい。老人は特に、家にももっているところをどんどん老化して動けなくなる。</li> <li>まちが活性化するような意見を出したつもりだが、工期が遅れたりなどでみんな頭に来ていて。市の方でリードしていただきたい。</li> <li>いまの秋芳図書館に魅力がない。図書館に来れば、限らない知の世界に入れ、可能性があり、素晴らしいところ。秋芳図書館を高校の時から利用している。</li> <li>新しい秋芳支所の図書館の設計図をみて、理想的だった。図書館の 1 コーナーに司書が居る場所があった。図書館にはレファレンスサービスなどのために、司書の顔が必要だと思うが、最新の設計図では行政部分に取り込まれている。これは基本的におかしいのではないか。そのような設計変更がすぐ行われ頭に来ていて。そういうことがないようにしてほしい</li> <li>レファレンスは大変な作業で経験が必要。県立図書館のように多くの職員がいれば、対応できると思うが、多くの人材を雇用できるのか。レファレンスのためだけのボランティア集団をつくるのはどうか。</li> </ul>	取組 2
	取組 1、取組 2

	- 基本構想との対応 -
<p>(一般参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建物のほうは計画など、多くの時間が必要になってくる。</li> <li>・ 美称システムの構築は、今できることから始めて、小さなイベントなどできるようになっていくことを少しずつ発信したり、色々な人たちで、みんなに見せていくことができれば、より今の図書館に対しての思いをもってくれる人が多くなる。物の外側もだが、内側の方を早め早めにしてもらい、図書館ができたときには、もっと、こういうかたちができるようになっていくからこそ、こういうことができるという、前準備を早めにしてもらいたい。</li> </ul> <p>(一般参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2か月前に美称市に移住してきた。4歳と2歳の子どもをもつ子育て世代で、市外のほうが遊ぶところが多いと思うが、桜公園や美称中央図書館、道の駅など、美称にしかない魅力があることに、2か月住んでいて感じた。</li> <li>・ 図書館の存在は美称市の中でも結構大きいのかなと思う。本を読む以外にも、子どもが室内でも遊べる環境や、高齢者の健康のための設備などを融合させるのも良いと感じている。</li> <li>・ 予算も限られていると思うが、不足する場合は基金なども行い、市民全体で図書館を良くしていく動きも良いと思う</li> </ul>	<p><b>取組 1</b> → <b>今後の検討課題</b> (p. 24)</p> <p><b>役割 5</b> → <b>今後の検討課題</b> (p. 24)</p>

	- 基本構想との対応 -
<p>(一般参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 役割2の多様な学びの活動を支援することに、特に賛同した。</li> <li>・ 今回の話を聞いて、自分がこれまでどんな時に学んできたか考えていた。学びをしてきたときに、常に隣にあったのは図書館であった。高校生のときは受験勉強をするのに図書館を利用してきて、勉強する空間ではあったが、疲れたと思ったときに、疲れたというのを共有できる司書や大人が常について、自身の心理的安全があったのも図書館だった。大学生のときも、テスト期間や普通のときに利用していた。高校の頃に比べて図書館は、自分のやりたいことを深める場所だった。</li> <li>・ 図書館にあるフリースペースを、友達と語り合うなどの際によく利用していた。やりたいことを語り合っている時こそ、学びが落ちている気がする。</li> <li>・ 本場に調べたいときにWi-Fi環境がしっかり備わっており、調べたいものが調べられる環境が大事。図書館によっては、Wi-Fiの強度が弱く、友達と一緒に共同編集するときに、耐えられないWi-Fi環境の図書館もあり、できればそうならないようにしてほしい。自分が、夢をもっと深めていくにあたり考えられる、ビジネス書や自己研鑽本が置いてあるともっと活用しやすかった。</li> <li>・ 空間づくりというところで、やりたいことを語っている大学生や若者を見た子どもたち自身が、こんなところで夢を語れる大人はかっこいいなと思うてもらえ、夢を語れる大人が図書館を通じて広がっていくと、まちも盛り上がりっていくと思う</li> </ul>	<p><b>役割 2</b></p> <p><b>役割 2、役割 5</b></p> <p><b>役割 2</b></p> <p><b>役割 2</b></p>

## 車座集会で出された意見と基本構想との対応

- 基本構想との対応 -

### ○市長コメント

・ いろいろな貴重なご意見ありがとうございます。私からのお願いは、融合という話があったと思いますが、いかに融合していくかということも取りまともて頂けたらと思います。融合することによって、多くの人に、祭りなどの際に協力していただけるのではないかと思います。どのような機能、どのような施設が融合できるのかということを是非お願いしたいと思います。  
(p. 24)

——融合について追記

#### 取組 4

p. 23 3)

——→今後の検討課題

(p. 24)

・ 引き続き、自分自身がここをどう使いたいかということをしつかりと議論できればと思います。参加者の方の意見の通り、出来ることからやっていかないと、間に合わないと思います。できた時には、体制整えるまで待ってということになるので、行政としてもできることからしっかりやっていきたいと思っています。職員配置や人材の問題ですが、多くの職員も参加しています。私は、資格とか何よりも、職員は熱い気持ちが一番ですので、引き続き熱い気持ちをもって、やっていきたいと思います。

#### 取組 2

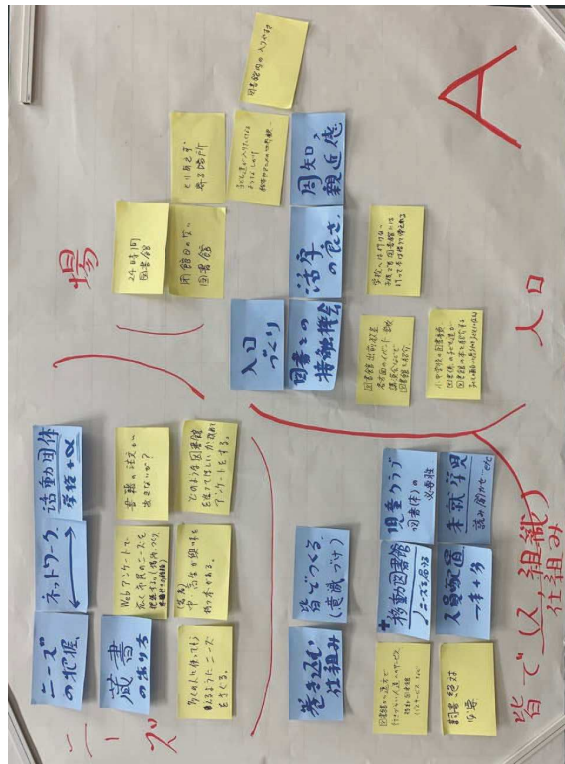
——→今後の検討課題

(p. 21)

・ 一部ご迷惑をおかけしているのですが、また説明をしっかりしたいと思います。引き続き、ご意見をしっかり聞かせていただき、我々はどうしても夢が膨らむと、お金が膨らんでいきます。夢がしぼまないように、頑張っていきます。引き続きお願いいたします。

美祢市立図書館基本構想策定業務	
令和3年度第6回美祢市立図書館あり方検討委員会 作業記録 (株)龍環境計画	
日時	2021年11月18日(木) 14:00~16:00
場所	美祢図書館2階視聴覚室
グループA	委員：利重佳子 (真長田保育園園長) 金石芳朗 (県立美祢青嶺高等学校校長) 野原妙子 (利用者美祢地区代表) 牛島朗 (山口大学大学院創成科学研究科感性デザイン分野)
参加者 (敬称略)	一般：横田友江 (市内在住)

STEP4：美祢らしい図書館の運営方式「美祢システム」をつくり上げていくためのアイデアと「アクションプラン」についての意見



○ニーズ

- ・ ニーズの把握
- ・ ネットワーク
- ・ 活動団体、学校+α
- ・ 蔵書のあり方

- ・ 多くの人々に使ってもらえるように、ニーズを探る
- ・ Web アンケートで広く市民のニーズを把握する(場所、つくり、書籍の種類)
- ・ 中高生(若者)が興味を持つ本がある
- ・ 書籍の注文が出来ないか?
- ・ どのような図書館をつくってほしいか、改めてアンケートをする

○皆で(人、組織、仕組み)

- ・ 巻き込む仕組み
- ・ 皆でつくる(意識づけ)
- ・ 図書館から遠方で行きづらい人達へのサービス。
- ・ 移動図書館、バスサービスなど
- ・ 移動図書館→ニーズを届ける
- ・ 児童クラブ、図書(本)の必要性
- ・ 司書絶対必要
- ・ 人員配置→本十分
- ・ 未就学児、読み聞かせなど

○場

- ・ 24時間図書館
- ・ 閉館日のない図書館
- ・ とりあえず寄る場所
- ・ 子どもたちが入りたくなるような仕掛け。絵本やアニメの世界観
- ・ 図書館内の入りやすさ

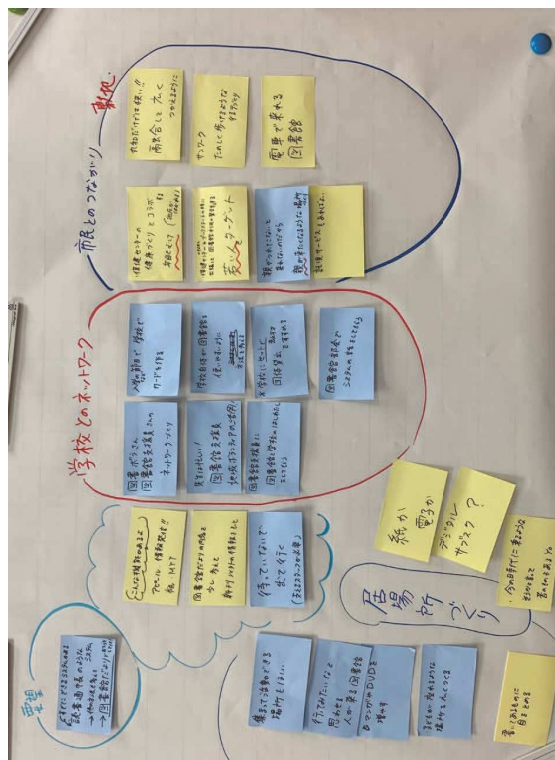
○入口

- ・ 入口づくり
- ・ 図書との接触機会
- ・ 活字の良さ
- ・ 周知、親近感
- ・ 図書館出前教室。各方面のイベント、学校、講演会などで図書館を紹介
- ・ 学校へは行けない子どもでも図書館には行って、本を借りて帰れる
- ・ 小中学校の図書委員、図書係の子どもたちが図書館の本を紹介する。子どもの面白いと思うものを子どもに伝える



美祿市立図書館基本構想策定業務	
令和3年度第6回美祿市立図書館あり方検討委員会 作業記録 (株)龍環境計画	
日 時	2021年11月18日(木) 14:00~16:00
場 所	美祿図書館2階視聴覚室
グループ	C 委員：柴崎良子 (大嶺中学校地域コーディネータ) 豊田康恵 (利用者秋芳地区代表) 金子明美 (教育委員会委員) 一般：田中佳子 (市内在住)
参加者	(敬称略)

STEP4：美祿らしい図書館の運営方式「美祿システム」をつくり上げていくためのアイデアと「アクションプラン」についての意見



○要望

- ・ 読書通帳のようなシステム (すぐにもでもできるシステムがある)  
→ 他の方も考えて。
- 図書館だよりでお知らせしては？
- ・ アピール、情報発信！ いろんな機能があるよ。市民、MYT
- ・ 図書館だよりの内容を少し考えて、新刊以外の情報をもっと

- ・ 待っていないで出て行く (支えるスタッフが必要)

○市民とのつながり

- ・ 保健センターの健康づくりとコラボする。年配向け (血圧がはかれる)
- ・ 保健センターの催しやブックスタートの時に出張して、図書館利用の登録をする。若い人をターゲット
- ・ 親が連れて来ないと来れないのだから、親が来なくなるような場所づくり
- ・ 託児サービスもあればよい
- ・ 電車で来れる図書館
- ・ サンワーク、楽しく歩けるようなまちづくり
- ・ 丸和だけでは狭い！！融合して広く使えるように

○学校とのネットワーク

- ・ 図書ボランティアさん、図書館支援員さんのネットワークづくり
- ・ 先生は忙しい！図書館支援員、地域ボランティアの活用！
- ・ 図書館支援員に図書館と学校の橋渡しをしてもらう
- ・ 入学などの節目に学校でカードを作る
- ・ 学校自体が図書館を使いやすいように、方法を考える
- ・ 学校に教材をセットで、団体貸出を進める
- ・ 図書館部会でシステムの話をしてもらう

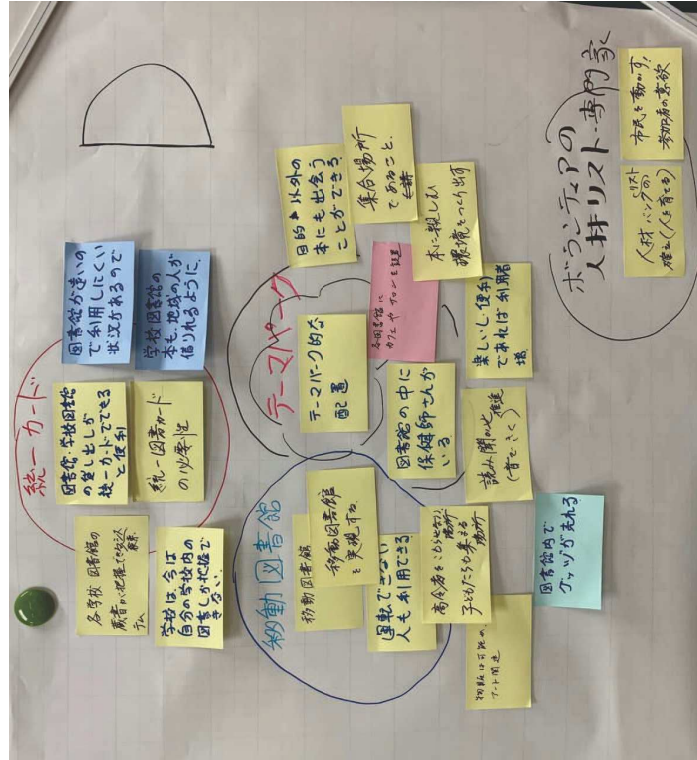
○居場所づくり

- ・ 集まって活動できる場所もほしい
- ・ 行ってみたくないなと思わせる、人が来る図書館
- ・ マンガやDVDを増やす
- ・ 子どもが座れるような場所を広くつくる
- ・ 書いてあるものに目をとめる
- ・ 紙か、電子か
- ・ デジタル、サブスク？
- ・ 今の時代に乗るような。そうかと言って昔のものもあるよ



美祿市立図書館基本構想策定業務	
令和3年度第6回美祿市立図書館あり方検討委員会 作業記録 (株)龍環境計画	
日 時	2021年11月18日(木) 14:00~16:00
場 所	美祿図書館2階視聴覚室
グループ	D
参加者	委員：波佐間正順(吉則保育園園長) 吉田真由美(秋吉小学校校長) 山根文江(読み聞かせの会代表) 一般：木村文代(市内在住)
(敬称略)	

STEP4：美祿らしい図書館の運営方式「美祿システム」をつくり上げていくための  
アイデアと「アクションプラン」についての意見



- 統一カード
- 各学校図書館の蔵書が把握できる検索システム
  - 学校は、今は自分の学校内の図書しか把握できない
  - 図書館、学校図書館の貸し出しが統一カードできると便利
  - 統一図書館カードの必要性
  - 図書館が遠いので利用しにくい状況があるので、学校図書館の本も地域の人  
が借りられるように

- テーマパーク
- テーマパーク的な配置
  - 目的以外の本にも出会うことができる
  - 集合場所であること
  - 各図書館にカフェやサロンを設置
  - 図書館の中に保健師さんがいる
  - 本に親しむ環境をつくり出す
  - 読み聞かせ推進(音で書く)
  - 楽しいし、便利であれば利用者増
  - 物販は可能か。アート関連
  - 図書館内でグッズが売れる

- 移動図書館
- 移動図書館
  - 移動図書館を実現する
  - 運転できない人も利用できる
  - 高齢者をこもらせない場所
  - 子どもたちも集まる場所
- ボランティアの人材リスト・専門家
- 人材バンクのリスト確立(人を育てる)
  - 市民を動かす！参加者の意欲

## 美称市立図書館基本構想策定業務

### 令和3年度第6回美称市立図書館あり方検討委員会 発表記録 (株)龍環境計画

日 時 2021年11月18日(木) 14:00~16:00

場 所 美称図書館2階視聴覚室

#### グループA

- ・ 新しい図書館をつくるには美称システムというところで話し合った。ここに集まっている方たちは図書館や本が好きならばいいから、そういう方たちだけの意見を聞いて図書館をつくるからといって、広くみなさんに使ってもらえるような図書館はできないと思う。費用対効果や税金などをみなさんに還元できないということに対して、まずどうしたらよいかということ、ニーズをしっかりと把握する必要があるのではないかと。ニーズの把握の仕方ですが、例えば市民にアンケート。アンケートも紙や、中学生が最近使っているWebアンケートなどで、的確にどんな要望があるか、どんな図書館をつかってほしいか、ということ把握することが必要。
- ・ どんな図書館をつくれればいいかということ、いろいろな人を巻き込んでやっていく。みんなでどういう組織、どういう図書館の仕組みをつくるのかということに、まずは人が必要ではないか。司書さんの人はいないか、ということでは運営は難しい。ニーズを把握して新刊を前に置いたり、子どもたちが読みやすいような工夫をするなどができる人材をしっかりと配置していくことは必要。
- ・ 次に人だけではなく、場のつくりかたのことですが、とにかく入りやすい、親しみやすい場に。立ち寄って、スタバのようにコーヒーが飲める場所があり、行ってみよいかと思える場や、あるところに24時間開いている図書館があり、そこが使いやすいかという意見があり、閉館日もない、そのような図書館ができればいいのではないかと。またアート、現代的で親しみやすい、センスのある芸術的な場がある図書館。
- ・ 最後にイベント。子どもたちが活用できるような、例えば小学校で図書委員の人たちにどんな本が楽しいか、ということを紹介する講演会などで、できるだけたくさんの方が新しい図書館をつくろうということを知り、関心をもってもらえるようにしていきたいのではないかと。

#### グループB

- ・ 美称市にたくさんいらっしゃる高齢者が使いやすいシステムを考えたい。高齢者の方はやはり車で移動するのが大変、遠くの図書館に行くのも大変というところでどういう風にしたらよいか。例えば身近な駅や公民館、スーパーマーケットなど大きな商業施設に、ブックポストを設置したり、コンビニなどで本の貸し出し、返却ができるようなシステムがあると高齢者の方も便利になるのではないかと。
- ・ また美称に2つある市民病院とネットワークをつくり、本の団体貸出をして読書コーナーをつくるのはどうか。
- ・ 駅や公民館などで本の受け取りができるシステムはどちらにしても、物流が必要になり、配送車、もしくは市の運送便を使うのはどうか。
- ・ 美称は図書館を利用する人が少ないという数値が出ており、図書館をもっと知ってもらうためにイベントをやたらどうか。今、開館時間が短いから開館時間を長くするというのには無理でしょうが、例えば読書週間の内の1日だけでも、夜の図書館などのイベントをしたり、図書館にお泊りするようなキャンペーンをしたりなどにより、図書館を知ってもらおう。他にも出張図書館という意見も出て、例えば、本と〇〇でイベント。〇〇には、何でも入るが、例えば本と料理、本と工作、本とアート、本と野草などといったイベントをして、その時に本をもってきて関連のある本が借りられるような図書館や図書カードの発行などをして、図書館をPRしたらどうか。図書館の使い方を講座もあるといい。
- ・ 図書館のシステムで、いろいろなシステムがあるが、例えば開館時間が短いということに対しては自動貸し出し、自動返却で何とかなるのではないかと、読書通帳がほしいなど。また市の図書館だけではなく、学校図書館や公民館の図書室、幼稚園や小学校などでどんな本をもっているかを検索できるシステムがあるといい。さらに一冊の本があるといっても本の書影、本の表紙がシステムの中で見られるとアピール力があるのではないかと。
- ・ いろいろなことをやるにはボランティアの方の方が大変になる。ボランティアスタッフをお願いする際には、ボランティアの方のプライベートをどういう風に取り扱おうかということも十分考える必要がある。

## グループC

- ・ 今すぐできそうなことということの中で意見がでた市民の利用が少ないことが現状の構想にも上がっているのは、登録カードをつくることではないかという話がある。それを打開するには、私の経験ですが、子どもと一緒に本を読みたいが、カードを登録するまでが遠いので、保健センターの催しやブックスタートの、検診のときに出張して登録カードの登録をすると、若いお母さんたちは助かると思う。そういうところで、まず登録カードの登録のハードルを下げるという意見がでた。年配の方は、保健センターの健康づくり講座などと融合して、行ったときに登録できるのはいかがでしょうか。
- ・ 美称市は広いので、親が連れて来ないと子どもは出て来られないため、親が来たくなるような図書館になるといいという意見がでた。そのためには、託児サービスなどがあるといい。
- ・ 学校とのネットワークも割とすぐできそうということの中で意見がでて、図書館ボランティアさんや図書館支援員さんですでに活動をされているので、そういう方に、もっと今の図書館がどうなっているかなど共有できれば。今は各校で動いていらっしやるみたいなので、横のつながり、ネットワークをつくる。先生は忙しいため、サポートをもっとしやすくなるようなネットワークづくりができればいい。
- ・ 学校が使いやすい教材はだいたい限られる。この単元のときにはこういう資料がほしいというのは、パッケージ化できるのではないか。今はそれに対応する本がないので、ここに貸し出したら、こちらの学校で使えないということが発生してしまう。パッケージ化して各校に貸し出せるようにするとともに使いやすいくなるのではないか。
- ・ 学校の入学などの節目の時に、図書館カードの登録、図書館利用の登録をすれば、図書館に個人で来て、登録するよりはハードルは下がるだろうと思う。それに関連して、例えば読書通帳のようなものが記録されていて、読み込めるといいですねという話をしたら、実は美称市のシステム上、できるということも司書さんに教えてもらった。そういうことをもつと学校に広める、利用者にも広めていかなければいけないのではないか。アピール、情報発信などいろいろななかたちで進めていけるといい。その媒体としてはMYTもよいし、図書館だよりの内容が、今は新刊情報になっているので、新刊以外の情報を

もう少し発信できれば。今は市報の一面なので、こういう媒体がよいのか、どういうかたちがよいのかに関しても考える余地があるのではないか。

- ・ 待っていないで、どこそこで集まりがあるから出て行って話すや、出て行って理解してもらおうなど、誰か登録に来ませんかではなく、こういう風にしてくださいというような姿勢がもっとできたら、利用者が増えていくのではないか
- ・ 大事なのは居場所づくり。集まって活動できる場所もほしいし、まず本を借りるかどうかがよき、人が行ってみたい、ちよつと寄ってみたい、集まってみたいと思わせるような、人が来る図書館になってほしい。
- ・ 子どもが座れる居場所をもっと広くつくったり、利用者が自由に座っている場所、周りの人が来たからちよつと移動しようなどがあるまいないように、なるべく広く座れる居場所、ゆっくり座れる居場所ができるとういのではないか。
- ・ 中高生が中々寄らないということ、マンガやDVDを増やすのはどうか。今の子どもたちはデジタルだから、どういう媒体がいいのか。サブスクのよくな、タブレットで見放題のようなものもいい。紙か電子か、どういうかたちが良いのかはみんな議論していく必要がある。今の時代のものもあるし、昔のものもちゃんとした、選書、資料集めができたらいいい。

## グループD

- ・ 美称システムということで、検索システム、予約システムが便利になったらそもそも図書館は必要ないのではないかといった意見がでて、どこでも本を借りられるのであればいいことでもたが、いやいややそうではなく、やっぱり人が集まらないといけない、ということで、図書館をテーマパーク化するのはいかがかという意見がでた。もちろん本も読みたい、園芸の本、料理の本などいろいろな本があり、そこでいろいろなイベントを行うと、自然に人が集まってくるのではないか。

- ・ 誰をターゲットにするのかではなく、やはり美称の人、高齢者も多い、小さい子も多いが、そういうこととてにかく集まってもらった方がいいのではないか。その中で、今健康がすごく注目されているので、保健師さんがいらっしやるとか、もちろんカフェやサロンを設置するのはどうかという意見もあった。図書館というよりも目的以外で行ったら本に出会え、本を読んでもみよとかかなとなるので、まずは集まってもらえるような図書館がよいのではないか。

- ・ ただ、場所が遠いので、車を運転できない方もいるため、移動図書館で読みたい本をいろいろなところに運んで、本を借りるということもできるのではないか。

- ・ 検索システムが構築されたら、今、利用者カードをつくられる方が少ないとあったが、例えば小学校の本も地域の本も借りることができる。小学校の本もほとんどバーコード化されていて、バーコードを読み取ったら自分が必要な本を読んでいるか、ちゃんと分かることができるので、ちょっと図書室で本を借りる、例えば学校が近いので自分が読みたい本を図書館から小学校まで持ってきてもらい、小学校で貸し出しをすることでもできるのではないか。今学校もコミュニティスクールになっているので、地域の方がたくさん学校に来てもらえることのできたら、地域の方たちも元気になるし、子どもたちもたとえ接することができたら、地域の方たちも元気になるし、子どもたちも地域の方たちと色々な話をすることによって、楽しくなるのではないか。知らないことを教えて、教えてとなるととどんとん学校の中に入っていることがある、そういうことのツールとしてもいいのではないか。どうしても図書館が遠いので、利用しにくい状況があるので、誰もが生涯学習として本を読める環境をつくらせるとなると、検索システムはすごく大切なものになるのではないか。

- ・ ただ、ICT といっても温かみが必要だと思う。もちろん司書の方が配置されることいいのだが、ボランティアや人材リストをもっていけば、何かの時に SOS を出して、来てもらえませんかという話もできるのではないか。

図書館はやはり市民みんなで作る図書館なんだ、という思いがあれば、ボランティアや人材リストが必要だと思う。とにかくこの図書館が、美称市を元気にさせる一つのツールになるのではないか。本を通していろいろな人との出会いを図書館が担うのではないか。

一議論して頂いた内容を説明して頂きましたが、運営をどうやって、やっていくのかという話や、ボランティア、市内にいらっしやる図書館に興味があり、図書館運営に関していろいろ力を貸してもらえような人たちの発掘作業を並行して進めていかないとけないという話。美称システムの絵で描いているようなそれぞれの施設、それぞれの場所で、本と関わられるような細やかなサービスが、網の目に広がっていくと本に親しむ機会がどんどん増えていくし、人のつながりもできていくということ、今後これを議論して、本当に実際の動きをつくっていくと面白いことになると聞きながら思いました。一つ一つそれをどうやっていくと面白いのかは、これからの課題だと思えますが、そのことが大事だということは基本構想で芽を出すことはできます。そこに非常に重要なことがあるということが確認できたというところで、この先の話は今日みなさんから出して頂きたいいろいろなアイデアは次のステップになったときに、具体的なあたりにしていく必要があるという風に思いました。今日のお話などを整理させていただいて、基本構想に活かせるものは活かして、次のステップでやれる話は、次のステップにつなげていくかたちで整理させていただきます。11 月いっぱい基本構想の取りまとめの期限に近づいているので、ここでまとめさせていただきたいと思えます。あり方検討委員会と車座集会を全部含めて、とても面白い議論ができたし、いろいろな多彩な方がいらっしやること分かったもので、非常に心強い思いをしています。

(内田)